

ここにあるもの
ここにいたること



さとほんじょう・やまや・かみすけぶち・しもすけぶち・しだのひら・ななみなど

神納東地域まちづくり協議会

I 基本理念と目指すべき地域の将来像

心やさしく安全に暮らせる神納東

～笑顔があふれる集落・地域を目指して～

- ・生活の安定と利便性を維持し、いつまでも家族一緒に暮らしたい。
- ・豊かな自然環境を守り、人と自然がふれあうことができる。
- ・みんなで話し合い、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる。



II 地域の特徴・課題

神納東地域は、村上市のほぼ中央に位置する農村地帯です。南北に、JR羽越本線、日本海東北自動車道（村上瀬波温泉IC）と国道7号が縦断し、東からは国道290号が接続する交通の要衝であり、交通量が多い地域となっています。土地のほとんどが田と山林によって占められており、米作主体の農業が中心でしたが、近年は交通の便利さから、事業所や店舗、ショッピングセンター等が進出しています。

当地域の居住人口は、約400世帯、1,500人程度です。6集落により構成されており、各集落がコミュニティの中心として活動しています。また、神納東小学校を中心とした地域コミュニティがあり、6集落の交流の場となっています。

自然に恵まれ、集落を中心とした人付き合いを通し、安全安心な暮らしがあります。交通・買い物の便にも恵まれており、近年では他地域からの転入も見られます。しかし、少子高齢化や働き場所の減少とともに、居住人口は減少傾向であり、高齢者世帯が増加しています。就業形態、趣味・趣向の多様化や子どもの減少による地域活動等の停滞、近所付き合いの希薄化が懸念される一方、交通網の拡充に伴う事故や犯罪の増加に対する不安も高まっています。

現在の安全安心な暮らしを守り、魅力あふれる元気なまちづくりを推進するためには、地域の力が不可欠であり、住民と行政が一体となって取り組むことが求められています。



Ⅲ 身近な故郷づくりから



子供の頃、炭焼きの手伝いをしていた。
大変だったけど、なつかしい。
無くすことは簡単だけど、
伝えていこうと思った。

自分自身の、 隣の人の、 集落の人の為に

昨年、まちづくり講座の中
で、講師の先生は、

「他人のためでは無く、自分の
ため、家族のため、集落のため
に、自分たちが汗をかく。そう
考えれば、そんなに難しいこと
はない。」

「町を良くするには、集落、住
民が光り輝きながら、日々過ご
さなければいけない。」
と、話していました。

「まちづくり」と聞いても、
何をやればいいのかわからな
いと言われます。自分自身のた
め、隣の人のため、集落の人の
ためから始める「まちづくり」
もあると思います。



■上助沢公園整備



■里本庄炭小屋整備



■下助渕神楽



■山屋収穫感謝祭



■七湊収穫感謝祭



■志田平収穫感謝祭

Ⅳ 地域全体のまちづくりへ



地域のもの、ひと、絆

神納東地域は、豊かな自然と多様な伝統文化、そして多くの人材を有しています。

また、集落がコミュニティの中心として、様々な活動を活発におこなっています。この6集落が協力することで、より大きな地域力が生まれます。

地域の絆を深め、一人一人が住んで良かったと思える「神納東づくり」に取り組んでいきます。

■ 神納東ふれあい運動会

気候の良い秋に6集落が一堂に会し、運動会を開催しています。集落を越えた交流の場となっています。

■ 神林地区敬老会

敬老者の長寿をお祝いします。敬老会を通し、世代間の交流と助け合いの気持ちを育みます。

■ 花いっぱいプロジェクト

地域の景観を整備し、快適な生活空間をつくっていきます。1年目は、神納東小学校に花を植えました。



神納東地域まちづくり協議会

会長 八藤後 敬一

副会長 島田 薫

運営委員会

委員 磯部 久人

中山 忠勝

斎藤 辰弥

鈴木 禎明

横山 房夫

横山 光治

内山 雅博

木村 重幸

天井 貞夫

松浦 直樹

